

特集にあたって About This Special Issue

館 昭*
TACHI Akira

この特集は「日、米、欧における国際的通用力を持つ大学評価システムの形成状況と日本の課題の研究」(平成14～15年度科学研究費補助金基盤研究 (A) (2), 研究代表者館昭) の研究成果報告をもとに, 構成されている。

本研究では, 日本, 米国及び欧州における大学評価システムの形成状況を国際的な通用力の視点から調査研究し, 現在構築中の日本の評価システムが国際的な通用力を持つために解決すべき課題を明らかにすることを目的とし実施した。実施に当たった研究組織は, 大学評価・学位授与機構の評価研究部の構成員を中心として, 国内外の専門家によって構成した。

2年の研究期間内に, (1)日本における大学評価システムの形成状況を国際的通用力の視点から調査するとともに, (2)国際的に評価のモデル視されているアメリカの評価システムについて, その全体像の把握のもとで, その内の起こっている最新の進展である品質経営法の活用及び新評価指標の開発状況を調査し, (3)欧州について, 1980年代からの欧州各国における各大学の自律性とアカウンタビリティの強化の視点からの評価システムの形成状況の把握のもとで, 欧州連合 (EU) としての高等教育の共通性の推進を約した1999年のボローニア宣言以降の各国高等教育の評価システムの改革状況について把握を目指した。そして, その成果にもとづき, 日本の評価システムが国際的通用力を備える上での課題を考究してきた。

科研の成果報告書, 平成16年3月に冊子形態で作成したが, その中の論考の一部はすでに当該紀要等に掲載, 公表したものであった。そして, 今回, 残りの部分について, 機構の学術誌「大学評価・学位研究」に, 英文要旨などを加えてブラッシュアップし, 掲載, 公表できる運びとなった。広く活用させることを期待するものである。

This special issue features articles on the results of the research project, “A Study of Quality Assurance Systems with International Validity and Currency: The Status of University Evaluation in the US, the EU and Japan”. This project received a grant from the Scientific Research of Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) and ran from 2002 to March 2004.

* 桜美林大学大学院国際学研究科教授, 独立行政法人大学評価・学位授与機構評価研究部客員教授
Professor, Obirin University/Visiting Professor, National Institution for Academic Degrees and University Evaluation